

みやぎ・復興の歩み 2

ココロアライム

2011.3.11 - 2013.3.11



宮城県

みやぎ・復興の歩み ココロアル『ム

2

Contents

宮城県知事ごあいさつ	— p.2
被災状況	— p.3
震災復興計画	— p.5
復興の進捗状況	— p.6
地域の復興状況（気仙沼・本吉エリア）	— p.9
地域の復興状況（石巻エリア）	— p.13
地域の復興状況（仙台沿岸エリア）	— p.17
地域の復興状況（内陸エリア）	— p.21
宮城県への支援状況	— p.23
復興市場・商店街	— p.25
復興の歩み（年表）	— p.27
被災者支援情報	— p.29

この冊子は、東日本大震災から2年が経過した宮城の復興の様子と、被災された方々が自ら取材した復興に向けた地域の取り組み（宮城県復興応援ブログ「ココロプレス」に掲載）を抜粋し、まとめたものです。

県内初の防災集団移転促進事業として昨年8月に着工した岩沼市玉浦西地区約20ヘクタールの造成工事の様子。被災した沿岸部6地区の集団移転先として、平成25年秋に造成を完了し、翌春の住宅入居を目指しています。約300戸の住宅が建設される予定です。平成24年度は県内各地で復興まちづくりに向けた工事が始まりました。

ごあいさつ

東日本大震災の発生から2年が経過しました。宮城県は甚大な被害を受けましたが、国内外の多くの皆さまからのご支援と数えきれない励ましの言葉に支えられながら、県民一丸となって復旧・復興に取り組んでおります。

改めまして、これまで賜りましたご支援などに深く感謝申し上げます。

この「みやぎ・復興の歩み2」は、震災から1年が経過した平成24年3月からの1年間を中心に、一日も早いふるさとの復興を願い、ひたむきに取り組んでこられた方々の思いを綴った冊子です。全国の皆さまには、この冊子を通して「宮城のいま」を、そして「被災者のいま」を知っていただきたいと思っております。

宮城県は、津波被災地の一部を除き公共インフラの復旧をはじめ徐々に震災前の姿を取り戻しつつありますが、一方では未だ10万人を超える方々が仮設住宅での生活を余儀なくされており、まちづくりなどの本格的な復興は緒に就いたばかりです。

また、震災によりやむなく住み慣れた土地を離れ、県外に避難された方々も多くあります。避難先の自治体や支援団体の皆さまからの避難された方々へのきめ細かなご支援に対しまして、改めて御礼を申し上げます。

わが県が目指す創造的復興を果たすにはまだまだ長い時間が必要ですが、ふるさとの復興を望む県民のために、また皆さまからいただいたご支援に報いるためにも、壊滅的な被害からの復興モデルをお示しできるよう、今後とも精一杯取り組んでまいります。

全国の皆さまにおかれましては、復興に取り組む宮城県をご理解いただくとともに、引き続きご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

宮城県知事 村井嘉浩



東日本大震災の概況

地震により発生した巨大津波により、県内では1万人を超える死者・行方不明者が生じるとともに、沿岸部の広範囲にわたり未曾有の被害をもたらしました。内陸部においても大きな揺れが約3分間続き、電気、上下水道、ガスなどの被害が広範囲に及び、道路、公共交通機関、通信インフラも大きな被害を受けました。沿岸地域では従来一定の津波対策を行ってききましたが、今回の巨大津波を防ぐことはできず、壊滅的な被害を受け、最大32万人を超える被災者が避難所での生活を余儀なくされました。また、東京電力福島第一原子力発電所が津波被災し、空間に放射性物質が放出されたため、宮城県においても、放射能測定や各種検査などの対応に追われました。



発生日時
平成23年3月11日(金)
14時46分頃

震央地名
三陸沖(北緯 38.1度、東経 142.8度)
牡鹿半島の東約 130km

震源の深さ **約24km**

最大震度 **震度7** (栗原市) マグニチュード **M9.0**

被害状況

詳しくは <http://www.pref.miyagi.jp/site/ej-earthquake/km-higaizyoukyou.html>

(1) 人的被害

死者	10,427人
行方不明者	1,302人

死者のうち856人が関連死
全国の被害者総数の約6割に相当

(2) 住家被害

全壊	85,259棟
半壊	152,875棟

全国の被害総数の約6割に相当

(3) 避難の状況

平成23年12月30日
県内の全避難所が閉鎖

ピーク時(3/14)
1,183施設(35市町村)
320,885人

応急仮設住宅入居者	49,376人
民間賃貸借上住宅入居者	54,639人
県外避難者	8,531人

(4) ライフライン関係被害

平成23年12月11日
県内のライフラインが全て復旧(津波で流出した地域を除く)

ピーク時	
停電	1,545,494戸
給水支障	35市町村
ガス供給支障	13市町

(7) 被害額の概要

交通関係	103	鉄道、バス、離島航路 ※東日本旅客鉄道分を含みません。
ライフライン施設	1,668	電気、水道、都市ガス、通信・放送施設
保健医療・福祉関係施設	510	医療機関、社会福祉施設など
建築物(住宅関係)	5兆1,274	
民間施設など	9,912	工業関係、商業関係、自動車・船舶など
農林水産関係	1兆2,952	農業、畜産業、林業、水産業など
公共土木・交通基盤施設	1兆2,606	道路、河川、海岸、港湾、下水道など
文教施設	2,026	学校、社会教育施設、文化財施設など
廃棄物処理・し尿処理施設	69	
その他の公共施設など	771	観光施設、消防・警察関係施設、庁舎など
計	9兆1,891億円	

(5) 浸水面積 **327km²**

青森、岩手、宮城、福島、茨城、千葉の6県
合計の浸水面積561km²の約6割、東京都
23区の面積の半分以上に相当

(6) 地盤沈下

海拔0m以下の面積	56km ²
-----------	-------------------

震災後増加割合3.4倍

被災直後と2年目の県内各地

震災の影響が大きく残る沿岸地域

<p>気仙沼市内 左遠方に小さく見えるのは鹿折唐桑駅付近に流された船</p>		<p>気仙沼市</p>
<p>南三陸町の防災庁舎周辺</p>		<p>南三陸町</p>
<p>石巻市門脇町周辺</p>		<p>石巻市</p>
<p>女川町中心部 中央に見えるのは津波で横転したビル</p>		<p>女川町</p>
<p>名取市関上 中央に見える小高い丘は日和山</p>		<p>名取市</p>
<p>亶理町荒浜 右遠方に見える建物はわたり温泉島の海</p>		<p>亶理町</p>

※(1)、(2)は平成25年2月28日、(3)は平成25年3月1日、(7)は平成25年2月12日時点の情報です。
※(5)東京都23区の面積は621.98平方キロメートル

被災状況

宮城県震災復興計画



宮城県は、平成23年10月に今後10年間における復興の道筋を示す「宮城県震災復興計画」を策定しました。

詳しくは <http://www.pref.miyagi.jp/site/ej-earthquake/fukkou-keikaku.html>

復興を達成するまでの期間をおおむね10年間とし、平成32年度を復興の目標に定め、その計画期間を「復旧期」、「再生期」、「発展期」の3期に区分します。特に、復旧期の段階から、再生期・発展期に実を結ぶための復興の「種」をまき、ふるさと宮城の復興に結びつけます。

計画期間：10年間（目標：平成32年度）



宮城県の復興

基本理念

1. 災害に強く安心して暮らせるまちづくり
2. 県民一人ひとりが復興の主体・総力を結集した復興
3. 「復旧」にとどまらない抜本的な「再構築」
4. 現代社会の課題を解決する先進的な地域づくり
5. 壊滅的な被害からの復興モデルの構築

また、平成24年3月に、県の長期総合計画である「宮城の将来ビジョン」（平成19年度～平成28年度）と、「宮城県震災復興計画」（平成23年度～平成32年度）を着実に実施し進行管理を行うため、両計画の中期的な実施計画として、「宮城の将来ビジョン・震災復興実施計画」を策定しました。

詳しくは <http://www.pref.miyagi.jp/site/ej-earthquake/fukkou-zissikeikaku.html>

復興のポイント

- 1 災害に強いまちづくり宮城モデルの構築
- 2 水産県みやぎの復興
- 3 先進的な農林業の構築
- 4 ものづくり産業の早期復興による「富県宮城の実現」
- 5 多様な魅力を持つみやぎの観光の再生
- 6 地域を包括する保健・医療・福祉の再構築
- 7 再生可能なエネルギーを活用したエコタウンの形成
- 8 災害に強い県土・国土づくりの推進
- 9 未来を担う人材の育成
- 10 復興を支える財源・制度・連携体制の構築

県内市町震災復興計画



県内21市町においても、地域の実情に応じて震災復興計画を策定しました。

■沿岸部市町

自治体名	震災復興計画	策定期間
仙台市	仙台市震災復興計画	平成23年11月
石巻市	石巻市震災復興基本計画	平成23年12月
塩竈市	塩竈市震災復興計画	平成23年12月
気仙沼市	気仙沼市震災復興計画	平成23年10月
名取市	名取市震災復興計画	平成23年10月
多賀城市	多賀城市震災復興計画	平成23年12月
岩沼市	岩沼市震災復興計画グランドデザイン	平成23年8月
東松島市	東松島市復興まちづくり計画	平成23年12月
亘理町	亘理町震災復興計画	平成23年12月
山元町	山元町震災復興計画	平成23年12月
松島町	松島町震災復興計画	平成23年12月

自治体名	震災復興計画	策定期間
七ヶ浜町	七ヶ浜町震災復興計画	平成23年11月
利府町	利府町震災復興計画	平成23年12月
女川町	女川町復興計画	平成23年9月
南三陸町	南三陸町震災復興計画	平成23年12月

■内陸部市町

自治体名	震災復興計画	策定期間
白石市	白石市東日本大震災復興計画	平成23年9月
角田市	角田市震災復旧・復興基本計画	平成23年8月
登米市	登米市震災復興計画	平成23年12月
栗原市	栗原市震災復興ビジョン	平成23年12月
大崎市	大崎市震災復興計画	平成23年10月
涌谷町	復興まちづくりマスタープラン	平成24年3月

詳しくは <http://www.pref.miyagi.jp/site/hukkousien/keikaku.html>

復興の進捗状況



宮城県では復興の進捗状況を取りまとめています。最新の情報はホームページでご確認ください。

<http://www.pref.miyagi.jp/site/ej-earthquake/shintyoku.html>

主なインフラの復旧状況

電気、ガス、水道などの主なライフラインについては、家屋など流出地域を除き、復旧しました。

■道路施設（県管理分の通行規制）

全面通行解除済箇所数：135箇所（H25/2/28）
全面通行止箇所数：137箇所（H23/3/11）



■鉄道（県内在来線）

運行再開延長：約360.2km（H25/2/28現在）
県内の鉄道延長：約457.1km（震災前）



■主要港湾

利用可能岸壁数：54岸壁（H25/3/1現在）
被災埠頭（仙台塩釜港）：55岸壁（H23/3/21現在）



■コンテナ貨物取扱量（仙台塩釜港（仙台港区））

H24.10～12のコンテナ貨物取扱量：46,598 TEU[※]
H22.10～12のコンテナ貨物取扱量：55,671 TEU

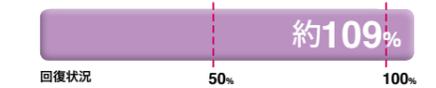


■仙台空港利用者数

■国際線 現在：43,135人（H24/11～H25/1）
震災前：64,873人（H22/11～H23/1）



■国内線 現在：602,791人（H24/11～H25/1）
震災前：555,593人（H22/11～H23/1）



環境・生活・衛生・廃棄物関連

被災者の生活再建を進め、安心して暮らすことのできる良好な生活環境を確保するとともに、環境保全など現代社会を取り巻く諸課題に対応した社会の形成を目指します。

■災害公営住宅

事業着手戸数：4,975戸（10市10町 H25/2/28現在）

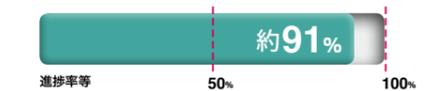
整備予定戸数：約15,000戸



■災害廃棄物

仮置場への搬入量：約1,004万トン（H25/1/31現在）

沿岸15市町の災害廃棄物の推計量：約1,100万トン（H25/1/31現在）



処理・処分量：約563万トン（H25/1/31現在）

沿岸15市町の災害廃棄物の推計量：約1,100万トン（H25/1/31現在）



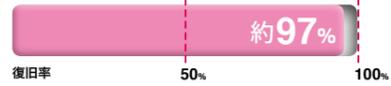
保健・医療・福祉関連

被災者の健康を守ることを最優先に考え、地域特性や再建後の地域社会の姿を想定し、地域における保健・医療・福祉の提供体制を回復・充実させます。

医療施設（病院・有床診療所）

再開した施設数：107施設（H25/1/31現在）

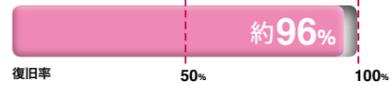
被災施設数：110施設（参考）震災前施設総数：336施設



高齢者福祉施設（入所施設）

再開した施設数：190施設（H25/1/31現在）

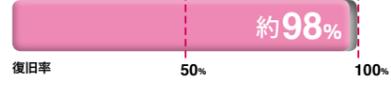
被災施設数：198施設（参考）震災前施設総数：463施設



障害者福祉施設

再開した施設数：135施設（H25/1/31現在）

被災施設数：138施設（参考）震災前施設総数：670施設



保育所（へき地保育所含む）

再開した施設数：123施設（H25/1/31現在）

被災施設数：135施設（参考）震災前施設総数：374施設



経済・商工・観光・雇用関連

ものづくり産業の早期復興と、商業や観光の再生とにぎわいづくり、県民生活を支える雇用の創出を最優先課題として、経済基盤を再構築します。

被災商工業者の営業状況

営業継続会員数：9,790会員（H24/3/31現在）

被災商工会・商工会議所会員数：11,685会員（H24/3/31）



観光客入込数

現在値 H23：4,316万人

震災前値 H22：6,129万人



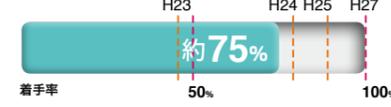
農業・林業・水産業関連

沿岸部全域を中心に甚大な被害を受けたことから、諸施策の抜本的見直しを含めた大胆な取り組みなどにより、地域経済をけん引する新たな成長産業へとステップアップを図るとともに、宮城県を我が国の食料供給基地として再生します。

農地（除塩含む）

復旧着手面積：約9,800ha（H25/1/31現在）

復旧対象面積：約13,000ha（H23/3/11）



＜年度別復旧計画＞

H23	5,780ha
H24	4,800ha
H25	1,270ha
H26	990ha
H27	160ha

農業用施設（排水機場）

本復旧着手施設：27施設（H25/1/31現在）

復旧対象施設：47施設（H23/3/11）



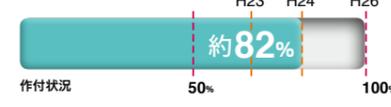
＜年度別復旧計画＞

H23	4施設
H24	26施設
H25	16施設
H26	1施設

水稻（津波被害市町村作付面積）

H24年産米作付面積：15,876ha（H24/12/20）

H22年産米作付面積：19,449ha

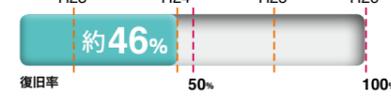


今後の復旧見込み
H26 100%

園芸（園芸用ガラス室・ハウス復旧面積）

復旧面積：82ha（H25/1/31現在）

復旧見込み面積：約178ha（H23/3/11）



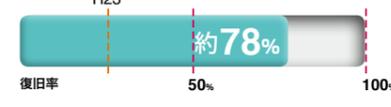
今後の復旧見込み

H24	5ha
H25	27ha
H26以降	19ha

畜舎・畜産関連施設（堆肥センターなど）

復旧済施設数：148施設（H25/1/31現在）

復旧予定施設数：190施設



今後の復旧見込み
H24以降 42施設

治山施設（山地・海岸）

実施状況(着手)：6施設（H25/1/31現在）

被災施設数：23施設（H23/3/11）



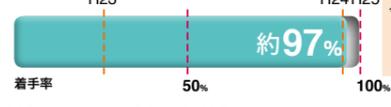
今後の復旧見込み
H24 19施設に着手
H27 完了



林道施設

実施状況(着手)：60箇所（H25/1/31現在）

被災箇所数：62箇所（H23/3/11）

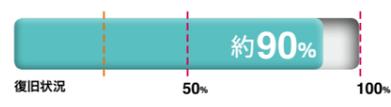


今後の復旧見込み
H23 15箇所に着手
H24 46箇所に着手
H25 1箇所に着手、完了

木材加工工場の製品出荷額

H24 製品出荷額：約250億円（見込み）（H25/1/31現在）

H22 製品出荷額：約276億円（主要工場16社）
*震災で生産停止



主要工場

製材工場	10社
合板工場	3社
チップ工場	3社

漁港（復旧工事）

工事着手漁港数：92港（県管理：26漁港、市町管理：66漁港）（H25/1/31現在）

対象漁港数：140港（県管理：27漁港、市町管理：113漁港）（H23/3/11）



漁船

稼働漁船隻数：約6,200隻（H24/11/30値）（H25/1/31現在）

震災前の稼働漁船隻数：約9,000隻（H23/3/11）



今後の復旧見込み
H26/3 約1,800隻

主要魚市場の水揚げ状況

*塩釜、石巻、女川、南三陸、気仙沼

H24 水揚げ金額：約437億円（約19万ト）（H24/1～H24/12）

H22 水揚げ金額：約602億円（約32万ト）（H22/1～H22/12）



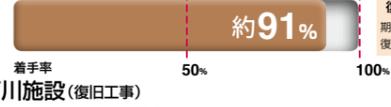
公共土木施設災害復旧事業

「次世代に豊かさを引き継ぐことのできる持続可能なみやぎの県づくり」の理念のもと、県民の命と生活を守り、震災を乗り越え、さらなる発展につなげる県づくりを目指して取り組みます。

道路・橋梁施設（復旧工事）

着手箇所数：1,426箇所（H25/2/28現在）

被災箇所数：1,565箇所（道路：1,437箇所、橋梁：128箇所）（H24/3現在）



復旧事業の概要
期間 H23～27
復旧費 約841億円

河川施設（復旧工事）

着手箇所数：251箇所（H25/2/28現在）

被災箇所数：278箇所（H24/3現在）



復旧事業の概要
期間 H23～27
復旧費 約2,420億円



海岸保全施設（復旧工事）

着手箇所数：46箇所（H25/2/28現在）

被災箇所数：74施設（H24/3現在）



復旧事業の概要
期間 H23～27
復旧費 約797億円

砂防・地滑・急傾斜施設（復旧工事）

着手箇所数：8箇所（H25/2/28現在）

被災箇所数：9施設（H24/3現在）

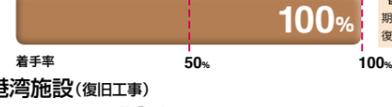


復旧事業の概要
期間 H23～24
復旧費 約8億円

下水道施設（復旧工事）

着手箇所数：121箇所（H25/2/28現在）

被災箇所数：121箇所（H24/3現在）



復旧事業の概要
期間 H23～25
復旧費 約439億円

港湾施設（復旧工事）

着手箇所数：184箇所（H25/2/28現在）

被災箇所数：292箇所（H24/3現在）



復旧事業の概要
期間 H23～27
復旧費 約884億円

教育・防災・安全・安心関連

教育の分野では、学校で学ぶすべての子どもたちが、夢と志をもって、安心して学べる教育環境を確保。防災・安全・安心の分野では、県民生活の安全・安心を守る社会基盤である防災機能や治安体制の回復、充実・強化を図ります。

県立学校施設（復旧工事）

復旧済施設数：72校（高校 56/73校、特別支援学校 16/18校）（H25/2/28現在）

被災施設数：91校（H23/3/11）



今後の復旧見込み
H24 12校
H25 3校
H28 2校
H29 2校

*教育活動については全ての学校で再開済み（仮設校舎を含む）

県立社会教育施設・県立社会体育施設（復旧工事）

復旧済施設数：12施設（社会教育施設 7/10施設、社会体育施設 5/5施設）（H25/2/28現在）

被災施設数：15施設（H23/3/11）



今後の復旧見込み
H25 2施設
H31 1施設

*一部供用開始を含めると13施設が再開済み（社会教育施設8/10施設、社会体育施設5/5施設）

私立学校施設（復旧工事）

復旧済施設数：143施設（幼稚園 82/95園、小中高 25/29校、専修・各種 34/39校）（H25/2/28現在）

被災施設数：163施設（H23/3/11）



今後の復旧見込み
H24 17校(園)
H25以降 6校(園)

*教育活動については幼稚園1園を除き再開済み（仮設校舎などを含む）



気仙沼・本吉エリア

気仙沼市・南三陸町



安波山から眺めた2年目の町並み(気仙沼市)

気仙沼・本吉エリアは、宮城県の北東部に位置し、気仙沼市、南三陸町の1市1町で構成されています。死者・行方不明者数は県全体の2割を超え、全半壊の住家被害のあった14,000棟以上のうち、8割以上が全壊となる壊滅的な被害を受けました。

平成24年度は、住民との意見交換や用地確保など、本格的なまちづくりに着手するために必要な取り組みを進め、3年目となる平成25年度は、復興まちづくりの進捗がより実感できるような一年となることを目指しています。また、市街地などを埋め尽くしていた膨大な震災廃棄物は、処理施設への搬入が進み、焼却炉が本格的に稼働。震災で大きな被害を受けた鉄道に代わる地域住民の交通手段として、バス高速輸送システム(BRT)の本格運行も始まりました。

一方で、東日本大震災が引き起こした広範囲の地盤沈下への対応など、まだまだ多くの課題を抱えています。



志津川小学校から眺めた2年目の町並み(南三陸町)



災害廃棄物処理に向けて本格稼働した焼却炉(気仙沼市)



地域の復興状況(気仙沼・本吉エリア)

気仙沼・本吉エリアの被害状況

	地域合計	県内合計
死者	1,823人	10,427人
行方不明者	456人	1,302人
全壊	11,626棟	85,259棟
半壊	2,747棟	152,875棟

(平成25年2月28日現在)

応急仮設住宅入居者数

	平成24年3月	平成25年3月
プレハブ住宅	14,094人	13,502人
民間賃貸借上住宅	6,085人	4,028人
計	20,179人	17,530人

(平成25年3月1日現在)



地盤沈下の様子(気仙沼市)

この記事は宮城県復興応援ブログ「ココロプレス」から抜粋しました。内容や表現は取材当時のものです。詳しくは <http://kokoropress.blogspot.com/>

2012年6月7日 木曜日

本日気仙沼の港は大忙しです

(気仙沼市)



この日の水揚げの目玉はピンナガマグロ。気仙沼から、海の恵みの便りです。

2012年7月2日 月曜日

サンマ新船！進水！

(気仙沼市浪板)



梅雨の最中の蒸し暑いある日、気仙沼港で1隻のサンマ漁船の進水を告げるファンファーレが鳴り響きました。水産都市気仙沼の鼓動がさらに大きくなりました。

2012年10月24日 水曜日

オクトパス君で合格祈願！

(南三陸町入谷)



オクトパス君スマホスタンド

「置くと試験にパス」する縁起物として誕生したオクトパス君に、新商品が登場。「南三陸復興ダコの会」では間伐材や津波被害木を材料にした新しいオクトパス君グッズの製作が行われていました。



2012年8月11日 土曜日

復活！2年ぶりの気仙沼みなとまつり！

(気仙沼市)



運を運ねることを意味する「海上うんづら」

気仙沼の夏の風物詩「気仙沼みなとまつり」が2年ぶりに復活しました。運を運ねる「海上うんづら」の祭りばやし、そして2500発の花火には、鎮魂と復興の願いが込められています。

2012年8月20日 月曜日

住民の生活の足 BRT 運行開始です。

(気仙沼市、南三陸町)



東日本大震災で大きな被害を受けて運休中だったJR気仙沼線。2012年8月20日、一部の高校で新学期が始まるこの日に、柳津～気仙沼間の53.3kmでバス高速輸送システム(BRT)の暫定運行が始まりました。

2012年9月27日 木曜日

笑顔は人生の花である～気仙沼の造船所の復旧

(気仙沼市大浦)



日本の漁業を支えている造船業。震災で大きな被害を受けた気仙沼の造船所の復旧状況についてお聞きしました。「笑顔は人生の花である」とは島山貢社長の大好きな言葉だそうです。

2012年11月4日 日曜日

未来永劫

(気仙沼市鹿折)

2012年7月、大津波と津波火災で大きな被害を受けた気仙沼市鹿折地区に、地元の水産加工会社17社が協同して気仙沼鹿折加工協同組合を設立しました。震災で途切れた取引を回復させ、組合が作る商品を少しでも多く売り、日本に通用するブランド品に育てたいと夢を語ってくれました。



理事長の川村賢寿さんと副理事長の臼井弘さん

2012年10月7日 日曜日

船神輿で海上安全と復興祈願

(気仙沼市唐桑町)



10月7日、気仙沼市唐桑町の早馬神社の例祭神幸船祭で神輿渡御が行われました。宿打囃子獅子舞保存会の奉納太鼓が響く中、神輿は担ぎ手の「せいや、せいや」の掛け声とともに神社を出発。町内の仮設住宅などを回った後、御崎沖まで渡御して海上安全と豊漁を祈りました。

2013年1月11日 金曜日

16年連続生鮮カツオ水揚げ日本一！

(気仙沼市)



津波と地盤沈下などにより大きな被害を受けた気仙沼市魚市場と漁港周辺の水産加工施設。水産業に関わる人たちの努力で復興に向けて歩みを進め、2012年も生鮮カツオ水揚げ数量19,760トンで16年連続日本一になりました。

2012年8月3日 金曜日

漁師町の「粋」を世界に

(気仙沼市唐桑町)



大漁旗にちなんだ「タイ」「日の出」「恵比寿」の絵柄。帆布で作られたバッグのポケットは、大漁はんてんのデザイン。女性3人が手作りして販売を始めた作品は、1つ1つが細やかな心遣いで作られ、漁師町の「粋」も備えていて、とっても素敵です。今では仙台だけでなくスイスでも売られるインターナショナルな作品です。

2012年7月29日 日曜日

気仙沼市早稲谷鹿踊り

(気仙沼市早稲谷)



地域で亡くなった方・諸霊と鹿踊りを継承した先人、そして東日本大震災の物故者の冥福を祈り、宮城県無形民俗文化財「早稲谷鹿踊り」が奉納されました。

地域で亡くなった方・諸霊と鹿踊りを継承した先人、そして東日本大震災の物故者の冥福を祈り、宮城県無形民俗文化財「早稲谷鹿踊り」が奉納されました。

2013年2月17日 日曜日

天高く！希望の天旗(てんぱた)を揚げました

(気仙沼市)

2年ぶりに気仙沼市の冬の風物詩「天旗まつり」がたくさんの方々の努力で復活しました。多くの市民が空を見上げ大空を舞うたこに歓声を上げていました。



2012年10月8日 月曜日

気仙沼から世界に向けて

(気仙沼市柏崎)



10月8日体育の日に開催された、気仙沼・復興再生プロジェクト「kesenuma,Smiles。」各界で活躍する若者らのトークショーやドキュメンタリードラマが上映されました。主催した阿部長商店社長の阿部泰浩さんは、「これからの復興への強い思いと気仙沼の人たちのひたむきさを笑顔で発信していきたい。たくさんの方々の支援と気仙沼で会えた多くの皆さんに感謝している」と話していました。

2012年11月23日 金曜日

仮設団地の感謝祭

(南三陸町志津川)



志津川中学校仮設団地の感謝祭。団地に住む人をはじめ、県外から応援で参加している人たちもみんな笑顔！ 風は冷たい1日でしたが気持ちがとても温くなりました。震災は悲しい出来事でしたが「人」と「人」の繋がり、「心」と「心」の繋がりをつくったことを強く感じた1日になりました。



神戸から参加されたボランティアの皆さん

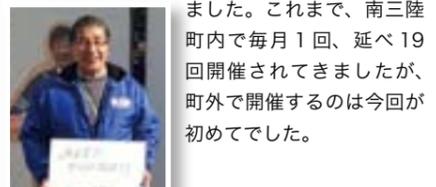
2012年11月16日 金曜日

南三陸町の福興市が仙台にて初開催！

(南三陸町、仙台市)



南三陸町の福興市は、震災後間もない2011年4月29日、津波により町の中心部が流失し、品物も場所もなくなった中、周辺地域などからの支援をいただきながら、手探りで始まったイベントです。その復興市が、仙台市でも開催されました。これまで、南三陸町内で毎月1回、延べ19回開催されてきましたが、町外で開催するのは今回が初めてでした。



実行委員長の山内正文さん

2012年11月14日 水曜日

小学校を使ってコミュニティ再生

(南三陸町歌津)



大震災でバラバラになってしまった地域の人が集まれる場所として2012年6月から南三陸町立伊里前小学校を会場に開かれてきた「たつがね学校」。最終回の11月14日は、南三陸町の語り部仲松敏子さんによる「ふるさと南三陸の民話を楽しまう」でした。



語り部の仲松敏子さん

2012年11月12日 月曜日

使命を一生懸命に生きる

(気仙沼市本吉町)

「生命」「使命」「一生懸命」。その3つの命を生きることが大切だと思いませんか？そしていつも笑顔でね。オイカワデニムの及川秀子社長は、発災から約4ヶ月間、高台にある工場を提供し、避難した地域の人たちと協力して避難所を運営しました。



2012年11月28日 水曜日

みんなの笑顔も創っています。

(南三陸町戸倉)

南三陸町水戸辺地区で仮設住宅に住みながら、素敵なお茶会を製作販売している女性たち。「集まってお茶を飲むだけでは進歩がないから」と、ボランティアの協力も受けながら編み物や縫い物に笑顔で励んでいました。



2012年11月18日 日曜日

唐桑産カキ復活！

(気仙沼市唐桑町)

第27回リアス牡蠣まつり唐桑「復興感謝祭」。販売開始1時間以上前から唐桑産のカキを求め人が長蛇の列を作りました。会場には、唐桑産カキの復興を支援してくれたライバルの広島県のカキ養殖関係者の姿も見られました。



2013年1月6日 日曜日

南三陸町の笑顔が集う広場に

(南三陸町志津川)



町の人たちが集まり催し物を開くことのできる会場が津波で失われていた南三陸町。このほど、250人を収容できる音響設備付き大ホールなどを備えた「南三陸プラザ」がオープンしました。



2012年8月18日 土曜日

映画「ガレキとラジオ」

(南三陸町)



南三陸町で放送していた期間限定のラジオ局、「FMみなさん」の活動を追いかけたドキュメンタリー映画「ガレキとラジオ」の完成披露試写会。今まさに、この地域が抱えている問題を映し出すスクリーンに、涙を止めることができませんでした。

2012年9月24日 月曜日

大津波到達点 子々孫々語り継ぐ

(気仙沼市唐桑町)

「東日本大震災復興祈願碑」が気仙沼市唐桑町宿浦の早馬神社に建立されました。その碑には、「復興祈願」と「後世へ津波を語り継ぐ」との思いが込められています。



建立された「東日本大震災復興祈願碑」

2012年10月25日 木曜日

「みちびき地蔵」、お堂再建

(気仙沼市大島)



東日本大震災の津波で全壊した「みちびき地蔵」の地蔵堂。気仙沼大島観光協会はこの「みちびき地蔵」を復興のシンボルとして再建しようと2011年9月に絵本を発行し、地蔵堂

の再建に向けて全国に資金面などの支援を呼びかけました。遠く京都の方々からの応援もあって、10月25日に再建・落成。緑の真珠・気仙沼市大島の、新たな観光スポットとして期待されています。



気仙沼大島観光協会の菅原聖月さん

2013年1月13日 日曜日

復興を担う若い力

(気仙沼市)



2013年の気仙沼市成人式。会場の気仙沼市市民会館には開式前から新成人が集まってにぎやかでした。会場には笑顔があふれ、友達との再会を抱き合っている姿や携帯電話片手に友達を探している様子が見られました。たくさんの若者が夢や希望をかなえることで、復興の力になっていくことを祈っています。

2012年9月7日 金曜日

気仙沼の歴史と文化の発信基地一部再開！

(気仙沼市赤岩牧沢)



7月末に東日本大震災から約1年5ヵ月ぶりに再開した「リアス・アーク美術館」の最初の企画は「津波展」。震災前に開催した明治三陸大津波の記録展に、この震災で学芸員が撮影し集めた貴重な記録写真を新たに加えて、次世代に教訓を語り伝えています。



学芸員の山内宏泰さん

2012年11月4日 日曜日

気仙沼の美味しいものが集まりました。

(気仙沼市本吉町)



同時開催された「第28回気仙沼・本吉地方産業まつり」と「気仙沼市本吉産業まつり2012」。会場は、たくさんの方々の笑顔と再会を喜ぶ声、気仙沼の美味しいものの香りでいっぱいでした。復興への歩みが確実に進んでいることを感じられました。



2013年1月15日 火曜日

子どもが希望に育つまち南三陸町へ

(南三陸町)



「未来を担う子どもたちが学びをあきらめない環境を大切にしたいです。」「南三陸ホテル観洋」の女将阿部憲子さんは、震災の直後から経営するホテルを2次避難所として提供し運営するなど、南三陸町を見つめてきた1人です。今、子どもたちの学習環境の整備に取り組んでいます。



2012年12月14日 金曜日

住民の安全と安心のために

(気仙沼市唐桑町)

自分の安全は自分で守る。93世帯が入居している気仙沼市唐桑町「福祉の里住宅」では、2012年7月、親睦会の役員15人と地元の警察、消防、行政などの関係機関が協力して、福祉の里住宅「防犯・防災・交通安全見回隊」を発足させました。



親睦会会長の坪内正一さん

2012年12月22日 土曜日

唐桑の海と共に生きる

(気仙沼市唐桑町)

震災から立ち上がった唐桑のブランドカキを、海を見ながら食べることができる施設「復興かき小屋唐桑番屋」。店長の清水千春さんは静岡県富士市出身で、潜水ボランティアとして仲間と唐桑町に通い続けるうちに、ついにここへ移住しました。



地域の復興状況(気仙沼・本吉エリア)

地域の復興状況(気仙沼・本吉エリア)

石巻エリア

石巻市・東松島市・女川町



日和山から眺めた2年目の町並み(石巻市)

石巻エリアは、宮城県の東部に位置し、石巻市、東松島市、女川町の2市1町で構成されています。全国の市町村で最大の死者・行方不明者を出した石巻市をはじめ、県内の人的被害の半数以上がこの地域に集中し、全半壊の住家も約47,000棟に上りました。

平成24年度は、被災地最大規模の被災市街地復興土地地区画整理事業により新蛇田地区の造成に着手した石巻市、市内全7地区の防災集団移転促進事業に着手した東松島市、そして女川町でもまちづくり事業の着工式が行われるなど、本格的な復興まちづくりへの一歩を踏み出した一年となりました。また、主要産業である水産業の復興や再生可能エネルギー導入に向けた取り組みも始まっています。

一方で、地域人口の約5分の1に当たる約38,000人が応急仮設住宅での暮らしを余儀なくされています。



ソーラーパーク建設工事の様子(東松島市)



まちづくり造成工事の様子(女川町)



地域の復興状況(石巻エリア)

石巻エリアの被害状況

	地域合計	県内合計
死者	5,224人	10,427人
行方不明者	744人	1,302人
全壊	30,787棟	85,259棟
半壊	16,928棟	152,875棟

(平成25年2月28日現在)

応急仮設住宅入居者数

	平成24年3月	平成25年3月
プレハブ住宅	24,328人	23,333人
民間賃貸借上住宅	22,692人	14,216人
計	47,020人	37,549人

(平成25年3月1日現在)



市内に積まれたがれきの山(石巻市)

2012年3月18日 日曜日

歌って踊って、心のパワーを取り戻そう！ 東松島市から笑顔発信「とびだす100通りのありがとう」

(東松島市)



東松島市と石巻市を中心に宮城県内の3歳～83歳までの被災者の方々が100人以上も出演するミュージカル、東日本大震災チャリティー公演「とびだす100通りのありがとう!」。日本中、そして世界中からいただいたたくさんの支援に対して「みんなでお礼を表現したい」との思いで開催しました。

実行委員長の前谷ヤイ子さん



2012年8月1日 水曜日

石巻最大のイベント川開き！

(石巻市)

石巻で最大のイベント「石巻川開き祭り」。供養祭や流燈、小中学生のパレード、そして北上川の河口を照らす5000発の打ち上げ花火などさまざまな催しが行われました。

地元の方々は言います。

「去年より活気が出てきてる」

「以前よりも賑わっている」

去年より、以前より、と思う人々が作り上げた川開き。来年も楽しみです。



2012年11月17日 土曜日

石ノ森萬画館 Re:Open

(石巻市中瀬)

「ヒーローたちと共に、子どもに笑顔を、街には元気を届け、市街地の活性化に取り組んでいきたい」。石巻市の旧北上川の河口近くにある石ノ森萬画館は、高さ5メートルを超える濁流に襲われ甚大な被害を受けましたが、萬画館のスタッフやボランティアなどによって清掃され、2012年7月から復旧工事が始まり、同年11月17日、ついに復活しました！



2012年8月18日 土曜日

笑顔の種をまく

(東松島市宮戸)



日本三景・松島から東に位置する「奥松島」の宮戸島。観光復興の第一歩として、豊かな自然と景観を取り戻す植栽活動に取り組んでいるNPO法人スマイルシード。この日も全国から集った支援の人たちが、水路の整備に大粒の汗を流しました。



2013年1月20日 日曜日

再出航！！

(石巻市雄勝町)



「あのまま震災がなければ、ただのんびんだらりと普通の人生で終わっていたわけさ。それが、この震災でいる人々と出会うことができ、かえって、人間としても、男としても、大人としても成長した」そう語るのは、石巻市船越の漁師、中里孝一さん。新造船「第五孝丸」の出航は、中里さん自身にとっても再出航の日となりました。



2012年9月2日 日曜日

石巻ふれあい朝市

(石巻市)



毎月第1、3週日曜日の朝6時から8時までの3時間、石巻駅前「にぎわい交流広場」で行われている朝市。震災の前から10年以上も続いているそうです。出店者の多くが被災し、販売する店舗も少なくなりましたが、「それでもやろう」と再び立ち上がり、元気に頑張っています。

2012年9月16日 日曜日

女川さんま祭り

(女川町)



マリナル女川おさかな市場で開かれた「さんま祭り」。獲れたてのサンマがギンギン銀色に輝いていました。すり身汁、そして炭火焼。県外からもたくさんのお客さまが押し寄せて、付近は渋滞になるほどでした。



2013年2月25日 月曜日

多様な再生可能エネルギーで 環境未来都市へ

(東松島市)



景観に配慮し、植樹や緑地整備を行います。

東松島市内で今年10月の運転開始を目指し、「奥松島『絆』ソーラーパーク」の建設が始まっています。出力約2メガワット規模のメガソーラー施設で、1万4千枚の太陽光パネルによって、一般家庭600世帯の年間使用電力量に相当する約210万キロワット時を、年に発電する予定です。再生可能なエネルギーを学ぶ教育の場としても活用していくといえます。



太陽光パネル設置のための基礎工事

2012年10月23日 火曜日

復興人 石巻元気復興センター代表松本俊彦さん

(石巻市)

石巻市沿岸部の水産加工品会社は津波によって事業所のほとんどが水没し、何もかもがゼロからのスタートになりました。「石巻元気復興センター」は、さまざまな問題を抱えているけれど、共に手を取り助け合い、信頼し合える「仲間」の集まり。「共に立ち上がる！」そんな思いを持ち再建を目指して活動しています。



2012年8月25日 土曜日

感謝、祈り、そして未来(復興)へ。東松島の夏祭り

(東松島市)



夏休みの終わる頃8月25日に開催された「東松島夏祭り2012」。当日はたくさんの人でにぎわい、神輿やパレードのほか、航空自衛隊も駆けつけ大盛況でした。「東松島に元気を！」と福島県川俣町から参加した山木屋太鼓の皆さんの太鼓の音も鳴り響いていました。



2012年11月19日 月曜日

被災地への恩返し

(石巻市、仙台市)



東日本大震災における建築家による復興支援ネットワーク「アーキエイド」で、地域支援のインターンとして活動している犬塚恵介さん。震災発生後に名古屋から仙台に移り住んで復興支援活動に励んでいます。「復興に携わっている人の“前に進んでいこうとする姿”には本当に勇気づけられました。その分、恩返しとして被災地でできることをしていきたいです」と語ってくれました。



2013年1月1日 火曜日

元気に働く姿を見せる。それが私の感謝の証し

(石巻市鮎川浜)

金華山への初詣客が船を待つ船着き場で、軽トラックに海産物を積んで販売していた齋藤恭子さん。常連客や支援の人たちに励まされて、ワカメ養殖の仕事と暮らしを着実に立て直しつつあります。



2013年1月7日 月曜日

女川アートギルドカンパニー

(女川町)

「アート」で地元を、女川を、石巻を盛り上げたいという思いで集まる人がいます。きぼうのかね商店街の一角を拠点に、女川のアートイベントのほか石巻も巻き込んで、共同イベントの計画も進行中です。



2013年1月17日 木曜日

18年の歳月に、同じ被災地から

(石巻市中央)



「同じ大震災を経験した者として、震災で亡くなられた方への追悼をしたいと思います」。阪神・淡路大震災から18年が経過した朝。石巻の中心市街地の一角で、「1.17 阪神・淡路大震災 石巻市民 感謝と追悼の集い」が行われました。

2012年3月18日 日曜日

女川町商店街復幸祭 - 希望の鐘を鳴らそう -

(女川町)



「1人でも多くの方に足を運んでもらい、女川の“今”を見てもらおう」そんな思いで女川町商工会が開催した「女川町商店街復幸祭」。多くのアーティストによるステージイベントや貴重な海産物の限定販売、ペガタ仙台コーチ指導によるサッカー教室など、企画は盛りだくさん。県外から大型バスも来て駐車場はどことも満車！海の幸に舌鼓を打つニコニコ顔の人たちで、会場は活気に溢れていました。



2013年1月13日 日曜日

正月と子ども

(石巻市南境)



石巻市の南境第7団地。「仮設住宅に住んでいる子どもたちに日本の文化を知ってほしい」「仮設住宅でも正月を感じられれば」そんな思いで餅つき大会が開かれ、子どもから大人まで餅つきを楽しみました。

2012年10月14日 日曜日

みんなで子ども秋まつり

(東松島市)

10月14日、東松島市コミュニティーセンター前で行われた「みんなで子ども秋まつり2012」。子どもの元気のおかげで、天候は晴れ！去年に比べ地元の方の参加が増えたそうで、「地元の協力が復興につながる」ことを実感できるイベントとなりました。



2012年6月11日 月曜日

REBIRTH プロジェクト in 石巻市北上町十三浜

(石巻市北上町)



ピザを焼く石釜

震災後間もなく石巻市北上町十三浜にボランティアが入ったセケ宿町の海藤節生さん。毎日パンやおにぎりで食事をすませているみんなに美味しい焼きたてのピザを食べさせたいと思ったそうです。多くの方々の助力をえて、2012年3月下旬に石窯が完成し、焼きたてのピザが振る舞われました！



2012年8月18日 土曜日

アメリカ(NY)から日本へ、日本(被災地)からアメリカへ、世界へ

(石巻市)

日本とアメリカをつなぐ2つの映像。1つは、東日本大震災の募金を呼びかけるためにアメリカ・ニューヨークを舞台に制作されたもの。もう一つは、石巻を舞台に世界中からの支援への感謝の気持ちを映したものの。インターネットを通じて世界中の方々が観るところとなりました。



制作者のKENJIさん

2012年8月16日 木曜日

復興人 Ishinomaki2.0 代理理事 松村豪太さん

(石巻市)

街歩きイベント「オープン石巻ツアー」。「ゆかた de 街コン」。「STAND UP WEEK」・・・面白くてすてきなことを次々と繰り上げて石巻を盛り上げているIshinomaki2.0代表の松村豪太さん。街づくりに真剣に挑んでいる方です。



2012年11月10日 土曜日

強く生きる人々の姿 - 石巻市立湊小学校避難所 -

(石巻市、仙台市)



仙台市青葉区の桜井薬局セントラルホールで上映された「石巻市立湊小学校避難所」の舞台挨拶にお伺いしました。当日は、藤川佳三監督とこの映画に出演されている村上愛子さんが登壇。避難所で必死に過ごす被災した方の本当の声と姿、悲しみの中でも人と人が支え合って生きる様子が映し出されていました。



2012年10月20日 土曜日

石ノ森萬画館再開カウントダウン

(石巻市中瀬)



着々と再開の準備を進めている「石ノ森萬画館」をバックに10月20日、音楽イベント「アニばら音楽館 EXTREME LIVE in 石巻」が開催されました。



石巻出身の速藤正明さん

2012年6月30日 土曜日

復興の一步

(石巻市魚町)



津波の猛威のシンボルとしてさまざまなメディアで世界中に紹介されてきた「鯨大和煮タンク」が6月30日、ついに解体・撤去されました。

2013年1月1日 火曜日

震災から2度目の金華山初詣

(石巻市鮎川浜)



一昨年来、繰り返し訪れている金華山。今年も「初詣・観光ボランティア」に参加してきました。牡鹿半島と金華山では、少しずつ前進の兆しが見え始めていました。

2013年2月18日 月曜日

橋本ママが世界に飛び出した日

(石巻市、県外)



橋本ママこと橋本信子さん(右から2人目)

国内からだけでなく世界各国から石巻に来てくれた大勢のボランティアの人たちの懸命な姿に感激し、愛情と栄養のたっぷり詰まった食事を6カ月間、のべ5400人分も提供した橋本信子さん。彼女がボランティアのために作ったレシピが出版され、その発刊記念イベントが東京・池袋の「宮城ふるさとプラザ」で開催されました。



2012年10月13日 土曜日

マンガの街石巻で「009 RE:CYBORG」ワールドプレミア試写会

(石巻市)



10月13日に石巻市内で行われた石ノ森章太郎さん原作の「009 RE:CYBORG」のワールドプレミア。神山健治監督は、「石ノ森先生を育んだ街で最初に公開できることは私自身とても誇らしく、震災で被災された方に少しでも明るい気持ちになってもらいたいです」と語ってくれました。試写会に先立ち、神山監督は再開を目にした石ノ森萬画館を視察しました。



2013年2月25日 月曜日

月浜の「月光プロジェクト」

(東松島市宮戸)

奥松島にある月浜。津波の高さは8メートルにも及び、ノリ養殖は壊滅しましたが、「再びノリを生産したい」という若い漁師の声にベテラン漁師も再び立ち上がり、「月光プロジェクト」が設立されました。震災前は、個人漁をしていた人々が、震災後一致団結して再生を果たし、支援してくれるたくさんの方々へ、真心たっぷりのノリでお返しをしています。さらにノリだけでなく、月浜の観光を盛り上げようと活動中です。



代表の山内良裕さん

仙台沿岸エリア

仙台市・塩竈市・名取市・多賀城市
岩沼市・亶理町・山元町・松島町
七ヶ浜町・利府町



仙台塩釜港、石巻港、松島港の3港が統合し、夢メッセみやぎの復旧や新インフラの供用開始など、復興に向けた取り組みが進んだ仙台塩釜港周辺

宮城県のほぼ中央に位置する仙台エリアのうち、沿岸部の市町は、仙台市、塩竈市、名取市、多賀城市、岩沼市、亶理町、山元町、松島町、七ヶ浜町、利府町の5市5町です。死者・行方不明者数は3,000人を超え、全国の市町村の中で最も住家被害が多かった仙台市を含め160,000棟以上の住家が全半壊する深刻な被害を受けました。

各市町では、地域住民との意見交換を重ねながら、被災市街地復興土地区画整理事業や防災集団移転促進事業、災害公営住宅の建設などの復興まちづくりに取り組んでいます。進ちょくの早い一部の市町では、4月に災害公営住宅の入居が始まります。また、津波被害を受けた農業では、従来の水稲やイチゴなどの園芸に加え、新たな手法の導入や作物の生産も見られています。松島周辺など壊滅的な被害を免れた地域では、観光業の回復の兆しが見られ、4月から始まる仙台・宮城アスティネーションキャンペーンでは、来県する観光客数の回復が期待されます。



災害公営住宅建設の様子(山元町)



市街地再開発を目指す市中心部(塩竈市)



地域の復興状況(仙台沿岸エリア)

仙台沿岸エリアの被害状況

	地域合計	県内合計
死者	3,353人	10,427人
行方不明者	100人	1,302人
全壊	41,500棟	85,259棟
半壊	124,697棟	152,875棟

(平成25年2月28日現在)

応急仮設住宅入居者数

	平成24年3月	平成25年3月
プレハブ住宅	14,429人	12,329人
民間賃貸借上住宅	37,108人	30,631人
計	51,537人	42,960人

(平成25年3月1日現在)



日和山から眺めた2年目の開上の様子(名取市)

この記事は宮城県復興応援ブログ「ココロプレス」から抜粋しました。内容や表現は取材当時のものです。詳しくは <http://kokoropress.blogspot.com/>



2012年5月20日 日曜日
「伊達の気概を発信し、感動と再生へ心ひとつに」
第28回仙台・青葉まつり開催 (仙台市青葉区)

燃えるようなケヤキの緑が蒼天の空を仰ぐ5月。仙台・青葉まつりが2年ぶりに開催されました。来場者数は過去最大の95万人。400年前の慶長三陸地震に際し、伊達政宗公は、多大な被害を受けながらも、物怖じすることなく不屈の精神で2年後に慶長遣欧使節の派遣を実現させたことに、思いをはせました。



2012年7月27日 金曜日
ありがとう 七ヶ浜・海まつり (七ヶ浜町葛蒲田浜)

歴史と多くの思い出が詰まった七ヶ浜町の海岸の白砂をよみがえらせるために海岸清掃活動に取り組んでいるボランティアの皆さんに対する感謝も込めて、3日間だけの海開きが催されました。



2012年12月19日 水曜日
全国1位を奪還へ 「カネコ橋沼」ほか塩釜ブランドの奮起 (塩竈市)



旧工場跡地に建設された新工場

長年かまぼこの生産で全国一を誇っていた塩竈市。震災で事業者が壊滅的な被害を受け、平成23年は7位に転落してしまいました。生産体制を立て直し、失われた販路を取り戻すために奮闘する事業者の1人「カネコ橋沼商店」の橋沼幸造社長。塩竈市の水産加工業者のこれからの奮起に大いに注目していきたいものです。



2013年1月23日 水曜日
大学の力を、復興の力に (仙台市)



「復興の担い手として大学などの高等教育機関ができることは何か」。宮城県内の大学や高専、市民、企業、行政などが相互に関係を結んだ「学都仙台コンソーシアム」の参加者らが、東北の復興のために一丸となって取り組もうと、「復興大学」が誕生しました。

地域の復興状況(仙台沿岸エリア)

2012年12月20日 木曜日
新たなモノづくりの拠点へ みやぎ復興パーク (多賀城市桜木)



2011年12月に開設された多賀城市の「みやぎ復興パーク」で12月20日、1年遅れの開所式が行われ、入居する一部の企業・団体の事業が公開されました。「次世代移動体システム研究会」を組織する東北大学未来科学技術共同研究センターをはじめとして、新しい

産業の創造に対する取り組みに期待が集まっています。



村井知事らを乗せた電気バスは、東北大学の青葉山新キャンパスで実証実験が予定されています

2013年1月23日 水曜日
「覚悟」が意味するもの 復興市街地再開発が始動 (塩竈市)

塩竈市中心部で、震災後の市街地再開発事業が動き出しています。市内で最も栄えてきた商店街の1つ海岸通商店街は、復興交付金事業に手を挙げ、数十回に及ぶ勉強会などを通して「海岸通1番2番地区再開発準備組合」を立ち上げました。



2012年12月25日 火曜日
イチゴの町、YAMAMOTOへ (山元町山寺)



IT技術で山元町のイチゴ栽培の復興を目指す、農業生産法人株式会社GRA。その研究農場では、温度、湿度、日射量、二酸化炭素量などが栽培に適した値となるようにコントロールされています。そしてその技術を支えるのが、山元町で昔からイチゴの栽培に携わってきた農家の知恵とノウハウです。



GRA 代表取締役の岩佐大輝さん



2013年1月10日 木曜日
未来に誇れるまちづくりを 県内初の防災集団移転促進事業 (岩沼市)



成する「玉浦西」(約200戸)などに移転する事業で、2012年8月に着工しました。

岩沼市では全被災地の先陣を切って、防災集団移転促進事業が始まっています。沿岸6地区住民が新たに造成する「玉浦西」(約200戸)などに移転する事業で、2012年8月に着工しました。

全体計画に当たった「まちづくり検討委員会」には移転住民や移転先周辺住民にも参加し、合意形成を図ってきました。今後、公共施設の整備方針などをまとめ、詳細設計の段階に入ります。



2012年10月29日 月曜日
水耕栽培「さんいちファーム」が新しい農業を先取り (名取市植松)



2012年6月、名取市植松の塩害を受けた水田に2000平方メートルのハウス3棟が建設され、本格的な葉物野菜の水耕栽培が始まっています。土で育てる場合より成長が速く、年間に7、8回は収穫

が可能な上、完全無農薬栽培。品質と納期で安定供給が見込まれています。地元はもとより、県外やインターネットでの個人向け通販などさまざまな販路を築き、安定した収益を目指す地域の新しい農業として期待されています。



代表取締役の瀬戸誠一さん

2012年7月1日 日曜日

浦戸のりフェスティバル

(塩竈市浦戸)



松島湾に浮かぶ浦戸諸島は、ノリの名産地。「復興のきっかけもノリから」と、たくさんの人たちの頑張りで「塩竈浦戸のりフェスティバル」が実現しました。

2012年7月23日 月曜日

記憶の防波堤

(名取市関上)



関上中学校の前に「関上の記憶」というパネルの貼られたプレハブの建物があります。中には慰霊碑を守る社務所や記帳所、カフェのほか関上に関するさまざまな資料が整然と並んでいます。NPO法人「地球のステージ」が運営しています。

2012年6月4日 月曜日

復活、魚市場！

(名取市関上)



冬の吹きさらしに耐えて競りや作業をしてきた関上の漁業者の皆さんにとって、念願の仮設関上魚市場が完成しました。

2012年12月8日 土曜日

震災で地域FM局が果たした役割

(多賀城市、塩竈市)



塩竈市にあるコミュニティFM局「バイウエーブ」。阪神・淡路大震災の教訓から設立されたこの局は津波被害で放送ができなくなったものの、2日目は塩竈市役所に仮設スタジオを設け、「臨時災害FM局」として情報発信を続けました。今、当時の振り返りが行われています。



多賀城市・七ヶ浜まちづくり推進協議会の皆さん。中央が「バイウエーブ」専務取締役の横田善光さん。

2012年12月22日 土曜日

原発避難者も一緒 「うつくしま福島交流会」初開催

(岩沼市)



「みなし仮設住宅」の入居者への日常生活の支援が本格化している岩沼市で、2012年12月22日、福島県からの避難者を対象にした交流会が初めて開催されました。「笑顔が出るようお手伝いしたい」とスタッフが話していたように、粋な計らいが随所に見られる催しとなりました。

2012年9月8日 土曜日

災害に備えよう！街の真ん中で被災したら

(仙台市宮城野区榴岡)

防災の日でもある9月1日と8日に、仙台市中央市民センターで防災講座が開催されました。過去の事例から学んだ教訓や東日本大震災から72時間を振り返るワークショップなどをとおして、備えの大切さを再認識しました。



2012年9月25日 火曜日

一店逸品運動

(亶理町、山元町)



震災以降、商店街の売上が下がっている亶理町と山元町。お店それぞれの特色を発信することで商店街の活性化につなげていこうと、亶理山元商工会が「一店逸品運動」をスタートしました。飲食店をはじめ、美容室や洋服店、自動車整備工場など幅広いジャンルのお店が登録されています。

2012年10月4日 木曜日

東北ろっけんパーク TRY6 チャレンジショップ

(仙台市青葉区)



仙台市青葉区のクリスロード商店街にある「東北ろっけんパーク」。仙台市中心部商店街の復興と東北の観光や産業の復興をバックアップすることを目的とし、2012年5月にオープンしました。その2階にある「TRY6 チャレンジショップ」と、「TRY6 チャレンジボックス」では、6店舗が営業中。約1坪と小さな店のディスプレイには、出店者の工夫と個性が見られます。

2013年1月5日 土曜日

夢をかなえる第一歩 ～ドリプラ☆東北魂 2013～

(仙台市)



「夢を見ることに資格はいらない」がテーマの「ドリムプラン・プレゼンテーション☆東北魂 2013」。震災にも負けずに前に進む子供たちの夢、そして未来ある子どもを思う大人たち。その思いに触れようと会場には多くの人々が集まりました。

2012年11月14日 水曜日

「新たな食文化を生み出そう！」支倉常長遣欧使節400周年 仙台地域農商工連携促進セミナー

(仙台市)



支倉常長について講演する市博物館の佐々木徹さん



日本民俗学会評議員の佐藤敬悦さん、テーマは「藩政期の仙台の食と南蛮料理」

2013年4月から6月にかけて実施される観光キャンペーン「仙台・宮城アステーションキャンペーン」。仙台藩の慶長遣欧使節400周年に当たる今年、農商工連携の視点と絡めて盛り上げようという勉強会が開かれました。

2012年10月31日 水曜日

名取交流センターがコミュニティを取り戻す試み

(仙台市、名取市)



名取交流センターが名取と仙台の両市内で開催している、被災者交流会「お茶っこのみでとまち」。その様子を拝見するために名取市の小塚原南集会所を訪問しました。その日はちょうど、芋煮会の日で、ばらばらになった地域の人たちが再開する場になっていました。

2012年10月27日 土曜日

イチゴ産地の未来のために

(山元町浅生原)



山元町で、自ら被災しながらもイチゴで再起を図る若い3人がいます。その3人が設立したのが、株式会社一莓一笑。震災前の生産量に戻るにはまだまだ時間がかかるとのことでしたが、年末にはハウスいっぱいイチゴの実がなり、年明けには食卓に上りそうです。

2013年2月15日 金曜日

2年ぶりに会えた、「夢みる乙女」

(亶理町)



亶理町の特産であるイチゴを原料に作られたワイン、「夢みる乙女」が2年ぶりに販売を再開し、大好評です。「2年造らなかつたらファンの皆さんに忘れられてしまう」亶理町小売酒販協議会会長の大堀清さんはじめ関係者の「復活を諦めきれない気持ち」が、発売までの困難な道のりを切り開いたのです。

2012年12月4日 火曜日

ビールと豆腐の幸福な出会い～「復興！七ヶ浜産大豆収穫祭」

(七ヶ浜町)



津波で町内のほぼ100%の農地が津波に流された七ヶ浜町。「このままではいけない！」と9人の生産者が農業復活に立ち上がりました。その熱意に、「食に関わる企業として、東北の農業の復興を応援したい」というキリンビールの支援プロジェクトがトラクターなどの農業機械を提供、4.8ヘクタールの大豆栽培が実現しました。収穫祭では、採れたての大豆で作られたおいしい豆腐料理を前に、乾杯の歓声が何度も湧き上がりました。

2012年10月26日 金曜日

全壊消失から再建へ 笹かま「ささ圭」が新工場で大規模稼働

(名取市植松)



震災で事務所や工場が壊滅的な打撃を受けながら、果敢に再建を果たす企業が増えています。今回は、その中の水産加工業者に注目。昭和41年の創業以来、名取市関上で笹かまぼこなどを作り続けてきた「ささ圭」を訪ねました。



佐々木亮社長

2012年12月12日 水曜日

まちの復興と活気を創出 塩竈市シャッターオープン・プラス事業

(塩竈市)

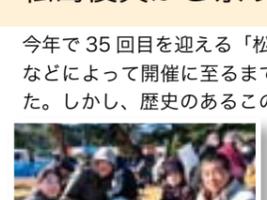
中心市街地に活気を呼び戻しまちを復興するために、空き店舗の1階部分を活用してもらおうと塩竈市が募集する「シャッターオープン・プラス事業」。震災後にこの制度を利用して事業を始めた2つのお店を取材しました。



2013年2月3日 日曜日

松島復興かき祭り

(松島町)



今年で35回目を迎える「松島かき祭り」。震災、異常気象などによって開催に至るまでにたくさんの苦労がありました。しかし、歴史のあるこの祭りを毎年待ち望んでいる全国の方々が足を運び、会場の松島海岸駅前の広場は多くの人でにぎわいました。



横浜からいらした鈴木さん一家

2013年1月17日 木曜日

研究成果から復興へ 産学官連携フェア・東北大学イノベーションフェア開催

(仙台市)

被災地から発信されるシーズ（研究成果）が社会のニーズに見合うことで、復興は加速されます。1月17日に仙台国際センターで、「産学官連携フェア2013winter みやぎ」、「産学官交流大会」、「東北大学イノベーションフェア」が、共同開催され、東北の学術研究機関などの研究成果が幅広く披露されました。



2012年11月15日 木曜日

畳で被災地に癒しを

(利府町)



名だたるい草の産地、熊本県では「くまもと畳表復興支援事業」を実施し、東日本大震災で被災した施設に熊本県産畳表を提供して、安らぎをプレゼントしています。今日は支援先の利府町保健福祉センターで贈呈式が開催されました。

2012年12月13日 木曜日

仙台の生みそ「岡田産づくり」が復活！岡田生産組合

(仙台市宮城野区)



仙台市宮城野区岡田は近年、みその産地として知られるようになっていきましたが、津波で78人の犠牲者を出したばかりか、原料生産の大豆畑や加工施設も流されてしまいました。それでも、震災直後から復活を誓って再建に取り組み、このほど出荷を再開。喜びの声をお聞きしました。

2013年1月12日 土曜日

目指せ陸田復活！岩沼白菜収穫ツアー

(岩沼市)



昔から岩沼の地に根付いてきた白菜。一度は途絶えたものの震災を機に復活しようとしています。津波によって地下水が塩水化したことにより稲の作付けができなくなった田んぼに、塩害に強い白菜を植えたのです。この日は、栽培を支援した東京のNPO法人「農商工連携サポートセンター」の「岩沼白菜/農地復興ツアー」。収穫を待つ間に養分をたっぷり蓄えた白菜が目の前いっぱいに広がる景色に、ボランティアの方たちもとても喜んでいました。



6月にオープンした花店

2013年1月17日 木曜日

「つみきめっと」を開発した東北工業大学の梅田弘樹准教授

東北大学、吉田和哉教授による極限ロボティクスに関する実演




「つみきめっと」を開発した東北工業大学の梅田弘樹准教授

内陸エリア

白石市・角田市・登米市・栗原市・大崎市
蔵王町・七ヶ宿町・大河原町・村田町
柴田町・川崎町・丸森町・大和町・大郷町
富谷町・大衡村・色麻町・加美町・涌谷町
美里町



地域の復興状況（内陸エリア）

県内陸部の20市町村では、津波の被害こそなかったものの、栗原市で最大震度7を記録し、死者・行方不明者の人的被害のほか、全半壊の住家が約10,000棟に及ぶ大きな被害を受けました。

被害の少なかった自治体においては、おおよその復旧の見通しが立ち、宮城の復興に必要な役割を模索するところもある一方で、多くの市町村においては、地域の実情に合わせた復興への取り組みを進めているところです。また、東日本大震災でこれまで以上に自治体間の絆が深まり、県外の自治体と防災協定を結ぶなどして、次の災害への備えを強化し支え合う動きもあります。

一方で、放射線量の測定や風評被害の払しょくなど、東京電力株式会社福島第一原子力発電所事故への対応に追われる市町村もあり、今後の課題となっています。

内陸エリアの被害状況

	地域合計	県内合計
死者	27人	10,427人
行方不明者	2人	1,302人
全壊	1,346棟	85,259棟
半壊	8,503棟	152,875棟

〔平成25年2月28日現在〕

応急仮設住宅入居者数

	平成24年3月	平成25年3月
プレハブ住宅	282人	212人
民間賃貸借上住宅	5,148人	5,764人
計	5,430人	5,976人

〔平成25年3月1日現在〕

この記事は宮城県復興応援ブログ「ココロプレス」から抜粋しました。内容や表現は取材当時のものです。詳しくは <http://kokoropress.blogspot.com/>

2012年9月16日 日曜日

人は宝なり



（大崎市古川）
吉野作造記念館の「宝」＝「人」プロジェクト。東北人がもともと持っているポテンシャルを引き出すため、議論力、思考力、表現力、理解力などの基本能力を養成し、未来と復興を担う人材を育てています。

2013年2月13日 水曜日

ハンバーグに自信あり 被災の「大地フーズ」が新拠点

（美里町、石巻市）



津波で製造ラインのすべてが流され、従業員に犠牲者も出た大地フーズ。しかし、「震災の当日に、事業の再開を決意した」と語る社長の陣頭指揮と従業員の懸命の努力で困難を次々に克服し、内陸部に拠点を移してついに操業を再開しました。



社長の須永光春さん

2012年9月30日 日曜日

復活！白石城

（白石市益岡町）



きれいによみがえった白石城！白石市にとって大事な観光資源である白石城。震災で大きなヒビが入ったり、しっくいのはがれたり大変なダメージを受けましたが、震災から1年半を経て、9月30日復活しました！

2012年9月16日 日曜日

宮城の青空に舞った絆つなぐ凧

（大衡村）



「みやぎ福幸凧あげ大会 in おおひら」。会場では被災地への支援活動続ける愛知県田原凧保存会の「絆アチ凧」がきれいな弧を描きました。



2012年7月18日 水曜日

やさお母さんの山菜料理のおもてなし

（栗原市栗駒）

4年前の岩手・宮城内陸地震で大きな被害を受けた栗原市荒砥沢地区に復興の息吹を探しにきました。風評被害にも負けずに営業を続けている「さくらの湯」は、とてもやわらかな温泉でした。



2012年10月26日 金曜日

被災した親子や子どもが休める場所に

（登米市登米町）



被災した子どもたちを支援するための復興共生住宅「手のひらに太陽の家」。安心安全に暮らすことができる場所として地元材を使い、自然エネルギーを取り入れた新しい社会の復興モデルを目指して、2012年7月に完成しました。



所長の細木典子さん

2012年10月31日 水曜日

「蔵の町並み」復興への第一歩

（村田町）



内陸部も沿岸部と同様、先の震災で被災しています。村田町の場合は震災による死亡者は皆無でしたが、建物などに大きな被害がもたらされました。「蔵の町」として名高い同町にとって、まさに至宝とも言うべき「蔵」もその例外ではありません。

2012年3月17日 土曜日

瓦礫の中から甦りし不屈の政宗魂 牟宇姫に宛てた伊達政宗直筆の手紙

（角田市）



東日本大震災から2カ月たった5月、石巻市湊町のがれきの下から伊達政宗が嫁ぎ先の

姫にあてた直筆の手紙が発見されました。姫が嫁いだ角田市で開かれた「かくだ牟宇姫ひなまつり」でこの手紙が披露され、来場者は震災と政宗をつなぐ縁の不思議にしばし感じ入りました。



牟宇姫あての手紙

手紙の保有者の内海伸宏さん

2012年7月12日 木曜日

笑顔で立ち向かう

（丸森町）



「いきいき交流センター大内」スタッフのみなさん

福島県との県境の町、丸森町。ゆったりとした時間の流れる農業の里。風評被害の影響を受けながらも、町の皆さんはこの現実に真っ向から挑んでいるように感じられました。

2012年9月1日 土曜日

地域の防災・減災のために

（富谷町ひより台）

防災・減災のために立ち上がった、地形や地質の専門家集団NPO法人「防災・減災サポートセンター」。行政や各方面に提言を行い、地域住民とのワークショップで「地域防災マップ」作りを進めています。



理事長の今野隆彦さん

2012年9月9日 日曜日

政宗公まつり

（大崎市岩出山）



勇壮な武者行列を再現

9月9日、伊達政宗が青年時代を過ごした大崎市岩出山で「第49回政宗公まつり」が、開かれました。目玉の甲冑武者隊には全国から参加者が集合、みやぎを励ましてくれました。「いざ！復興へ！参るぞ！」政宗公の雄叫びが聞こえてきたようでした！



関東から参加の蓮川さん

2012年11月2日 金曜日

「女性と共に」

（登米市迫町）



震災後、津波で大きな被害を受けた南三陸町から、隣接する内陸部の登米市に多くの住民が転入して来ました。「とめ女性支援センター」は、転入してきた女性や、もともと登米市で暮らす女性たちのために、子育ての悩みなどを話し合う場所や、雇用の機会を作ろうと立ち上がりました。



集える場所と雇用の創出を目指して「カフェつむぎ」の運営もしています



2012年11月19日 月曜日

安全安心な野菜を食卓へ

（栗原市一迫）



栗原市一迫で、野菜の水耕栽培と減農薬・減化学肥料で育てられるブランド米「伊達の米」の生産に取り組んでいる有限会社 耕佑。2つの大地震で施設が受けた被害を乗り越えて生産を続けた野菜は、市場からも高い評価を受けています。



二度の地震で施設全体が大きな被害を受けました。

代表取締役の山村喜久夫さん



2013年2月14日 木曜日

復興を忘れないお酒 除塩田と中勇酒造店

（加美町、仙台市）

「大丈夫なのかと思いました。塩水をかぶった田んぼのコメで造って、おいしい酒ができるのか」と仙台市若林区で農業を営む大友一吉さん。被災した地域の復興を願う県内の酒造会社から「津波で壊滅した仙台市沿岸部でコメが作られているが、それを酒米として利用したい」と提供を打診された時に、こう感じました。しかし、大友さんが丹精込めて育てたコメは、極上の純米酒に生まれ変わりました。



2013年2月10日 日曜日

2つの町をつなぐ「絆」

（川崎町、石巻市）

震災直後に石巻市で被災した方々の2次避難場所となった温泉宿が多くある川崎町。住民には石巻との固いつながりと「少しでも被災地の支援につなげたい」という思いがあり、冬のイベント「青根温泉雪あかり」には当時避難していた方々が招かれました。「海の町、石巻」と、「山に抱かれた町、川崎」の間で築かれた絆は、今も強く結ばれています。



宮城県への支援状況

国内外からの多大なる温かいご支援に支えられて、宮城は復興への歩みを進めています。いただいたご支援に改めて感謝申し上げますとともに、ここではその一端をご紹介します。



東日本大震災からの復興復興のため、多くのボランティアの方々にご支援をいただきました。本当にありがとうございます。
震災から2年が経過し、ボランティア活動の内容も災害復旧的活動から被災者の復興・自立に向けての生活支援、見守りや相談、地域コミュニティの再生などに変化しており、ボランティアを含めた支援者側も被災者の自立意識を視野に入れた支援活動が必要とされています。
ボランティア活動を希望される方は、活動時間や申込方法、受け入れの条件などを下記の各センターで事前にご確認ください。

活動ボランティア延べ人数

57万126人 (H23.3.12 ~ H25.2.28)

他都道府県などからの人的支援数

宮城県 / 515人 (H25.2.1 現在)

市町村 / 760人 (H25.2.1 現在)

寄附金 県内の災害復旧および復興事業の財源のために活用させていただいております。

11,589件 281億5,304万4,000円 (H25.2.28 現在)

義援金 被災された方々に対する生活支援のために活用させていただいております。

・県の受付状況

18万9,898件 257億8,932万6,740円 (H25.2.28 現在)

・政府および義援金受付団体からの配分状況

1,784億7,601万3,730円 (H25.2.28 現在)

東日本大震災みやぎこども育英募金

東日本大震災による震災孤児などのために活用させていただいております。

6,603件 54億1,343万7,731円 (H25.2.28 現在)

義援金、寄附金の取扱いについて

詳しくは <http://www.pref.miyagi.jp/site/ej-earthquake/kihu.html>

ほかにも物心両面で本当にたくさんのさまざまなご支援をいただきました。今なお被災地製品の購入やチャリティーイベント、県外避難者へのご支援など、さまざまな形でご支援いただいておりますことに心より御礼申し上げます。

この記事は宮城県復興応援ブログ「ココロプレス」から抜粋しました。内容や表現は取材当時のものです。詳しくは <http://kokoropress.blogspot.com/>

2012年11月17日 土曜日

東北コットンプロジェクト



津波被害によって稲作ができなくなっている農地に綿を植えることで農地の再生を目指す「東北コットンプロジェクト」。農家、企業、消費者が一体となって継続的な復興支援をしていく活動となっています。この日は綿花収穫祭が行われ、地元の中学生が参加していました。

南吉成中学校の皆さん



2012年6月25日 月曜日

農地再生ボランティア「ReRoots」



仙台市若林区で震災で避難所に身を寄せながら自ら炊き出しや物資の配給などを手伝った学生たちが中心になって結成した震災復興・地域支援サークル ReRoots (リルーツ)。「ボランティアをしていることに自己満足してはいないか?」こんな問いを自らに課しながら、活動に取り組んでいます。

2013年2月10日 日曜日

ちょこっとボランティアで出会った浜



SNS で集まった人々が炊き出しイベントのボランティアとして女川と石巻の応急仮設住宅に集まりました。

命名されたのが「ちょこっとボランティア」。ミュージシャン、漫才師、カウンセラー、そして地元の人々のために活動している人と、さまざまでした。

2012年8月28日 火曜日

困っている人をあまねく法で照らす



「法テラス（日本司法支援センター）山元」。東日本大震災の被災地支援のための拠点として2011年10月に業務を始めていた「法テラス南三陸」に続き、同

「とにかく気軽に来てみてください」と、利用を呼び掛けていました。県内では法テラス宮城（仙台市）や法テラス東松島でも活動を行っています。

年12月、ここ山元町にも開所されました。

「法テラス山元」の鈴木健太郎さんと小泉にさん

2012年8月27日 月曜日

復興の情報発信の頼もしい味方、情報レンジャー



2012年3月からスタートした、民学官が協同で被災地から震災復興の情報を発信する試み「助けあいジャパン情報レンジャー@宮城」。動画中心の取材した情報は、Web サイトで公開しており、被災地の生の声を聞き、臨場感ある風景を見ることが出来ます。この日は共同体の一翼、東北学院大学の災害ボランティアステーションの取り組みを取材していました。

情報レンジャーの皆さん



2012年6月27日 水曜日

自分で自分の幸せをつかんでほしい～あしなが育英会～

遺児支援に本格的に取り組むため、地震発生から1カ月後には仙台市若林区に東北事務所を開設した「あしなが育英会」。現在、被災した子どもたちのケアに本格的に取り組むためにレインボーハウスの建設準備中です。



東北事務所の林田吉司さん

2012年11月3日 土曜日

失われた子どもたちの遊び場を再び!



東日本大震災により被災地の子どもたちの遊び場の多くが失われました。そんな子どもたちに「たくさん遊んで笑顔になってほしい」との思いから、プレイグラウンド・オブ・ホープが、遊具を設置しました。世界中の方々の思いが伝わっています。



代表のマイケル・アナップさん

2012年11月17日 土曜日

「新宿組」ボランティア随記

東京都新宿区のまちづくりグループのボランティアツアー。夜行バスからマイクロバスに乗り換えた参加メンバーは、津波に遭った七ヶ浜町の耕作地の現状視察、東松島市の植栽活動、石巻市の養殖貝殻の整理と2日間フル活動でした。



2013年1月25日 金曜日

被災者と地域住民との交流の場

仙台市で民間賃貸の「みなし仮設住宅」に住んでいる被災者と地域住民との交流の場「ぶらっとほーむ木町」。産直野菜の販売や定期的に教室を開催するようになってから地域に住んでいる多くの方に利用してもらえるようになりました。



2012年12月15日 土曜日

被災地の地域づくりを支援する「復興応援隊」



地域のイベントを支援する復興応援隊員の畑山修賢さん

「復興応援隊」とは、被災地の地域づくりを目的とした住民主体の活動を支援する人たちのこと。県が市町村や関係団体と連携して、内外から人材を募り結成し、県内8カ所で活動しています。「何もしなければ現状維持か衰退しかない。何かしたら下手こくか、成功するかどちらかだ」。印象に残るこの言葉は、隊員の大森さんが地元の人によく言う言葉だそうです。

復興応援隊員の大森圭さん 堀越千世さん



復興市場・商店街

県内沿岸部各地に建設された仮設商店街をはじめとする市場や販売所。飲食店や地域の特産品などの販売店をはじめ、震災により甚大な被害を受けたさまざまな事業者の方々が復興に向けて頑張っています。なかには震災の教訓を後世に伝える施設を設けているところもあります。宮城県にお越しの際は、ぜひお立ち寄りください。

気仙沼市



- 1 復興屋台村 気仙沼横丁**
☎ 080(1692)8000
所在地: 気仙沼市南町四丁目2-19
- 2 気仙沼復興商店街 南町紫市場**
☎ 090(8612)6031
所在地: 気仙沼市南町二丁目2-1
- 3 福幸小町田谷通り**
☎ 0226(22)3438(気仙沼市観光課)
所在地: 気仙沼市田谷11-1
- 4 福幸小町田中通り**
☎ 0226(22)3438(気仙沼市観光課)
所在地: 気仙沼市中前四丁目2-1
- 5 福幸小町南が丘通り**
☎ 0226(22)3438(気仙沼市観光課)
所在地: 気仙沼市南が丘一丁目102-5
- 6 海岸前商店会**
☎ 0226(22)3438(気仙沼市観光課)
所在地: 気仙沼市魚町二丁目3-3
- 7 気仙沼産折 復興マルシェ**
☎ 0226(29)6816
所在地: 気仙沼市中みなと町107-1
- 8 東新城かもめ通り**
☎ 090(9039)6177
所在地: 気仙沼市東新城一丁目6-6
- 9 気仙沼さかなの駅**
☎ 0226(21)1231
所在地: 気仙沼市中前二丁目12-3
- 10 まついわ福幸マートココサカエル**
☎ 0226(25)7677
所在地: 気仙沼市松崎片浜106-109

- 15 マリンパル女川おさかな市場**
☎ 0225(54)4714
所在地: 女川町浦宿浜字篠浜山2
- 16 きぼうのかね商店街**
☎ 0225(53)3310
所在地: 女川町浦宿浜字十二神60-3
- 17 おながわコンテナ村商店街**
☎ 0225(53)3377
所在地: 女川町鷺神浜堀切5
- 18 石巻まちなか復興マルシェ**
☎ 0225(92)6603
所在地: 石巻市中央二丁目11-13
- 19 石巻立町復興ふれあい商店街**
☎ 0225(22)0145
所在地: 石巻市立町二丁目6-23



- 20 ホット横丁石巻**
ishinomaki@hotyokocho.com
所在地: 石巻市大街道一丁目1-14
- 21 おがつ店こ屋街**
☎ 0225(62)3161
所在地: 石巻市雄勝町雄勝伊勢畑84-1
- 23 復興仮設店舗 堺堀**
☎ 0225(82)1111(東松島市商工観光課)
所在地: 東松島市大曲字堺堀13-5
- 24 復興仮設店舗 グリーンタウンやもと**
☎ 0225(82)1111(東松島市商工観光課)
所在地: 東松島市大塩字緑ヶ丘四丁目4-1
- 25 復興仮設店舗 ひびき**
☎ 0225(82)1111(東松島市商工観光課)
所在地: 東松島市川下字内響132-32
- 22 おしかのれん街**
☎ 0225(45)2521
所在地: 石巻市鮎川浜漢川11-12

登米市・南三陸町



- 11 伊里前福幸商店街**
☎ 0226(36)2235
所在地: 南三陸町歌津字伊里前96-1
- 12 南三陸さんさん商店街**
☎ 090(7073)9563
所在地: 南三陸町志津川字御前下59-1
- 13 南三陸直売所みなさん館**
☎ 0226(36)2816
所在地: 南三陸町歌津字管の浜57-1
- 14 登米・南三陸フェスティバル**
☎ 0220(23)9227
所在地: 登米市迫町佐沼字西佐沼105

塩竈市・多賀城市・松島町・七ヶ浜町



- 26 松島さかな市場**
☎ 022(353)2318
所在地: 松島町松島字普賢堂4-10
- 27 七の市商店街**
☎ 022(357)7443(七ヶ浜町産業課)
所在地: 七ヶ浜町吉田浜字野山5-9
- 28 塩釜水産物仲卸市場**
☎ 022(362)5518
所在地: 塩竈市新浜町一丁目20-74
- 29 しおがま・みなと復興市場**
☎ 022(362)2957
所在地: 塩竈市海岸通226-5
- 30 しおがま・本町くるくる広場**
☎ 022(362)8863
所在地: 塩竈市本町5-19
- 31 多賀城復興横丁わいわい村**
☎ 022(368)1141(多賀城市商工観光課)
所在地: 多賀城市町前三丁目3-8,9,10

- 32 ゆりあげ港朝市** ※臨時会場
☎ 022(395)7211
所在地: 名取市杜せきのした五丁目3-1(イオンモール名取内西側駐車場)
※平成25年5月から開上で再開予定
- 33 関上さいかい市場**
☎ 022(382)3236
所在地: 名取市美田園七丁目1-1
- 34 鳥の海ふれあい市場**
☎ 0223(35)2228
所在地: 亶理町荒浜字築港通り28-2
- 35 ふるさと復興商店街**
☎ 090(8250)3876
所在地: 亶理町悠里1
- 36 夢いちごの郷**
☎ 0223(37)1115
所在地: 山元町浅生原字下宮前94-1

※開催状況について…沿岸の市街地は、東日本大震災で多大な被害を受けました。駐車場や道路状況、開催日など、制限される場合がございます。何とぞご理解いただき、事前にお問い合わせの上、ご来場くださいますようお願い申し上げます。

2013年2月14日 木曜日
復興屋台村 気仙沼横丁
(気仙沼市南町)

「復興屋台村 気仙沼横丁」の飲食店では地元の食材を使うのがルール。地元の旬の山海の幸を使った料理が並びます。営業時間や休日は店舗によって異なりますが、どの店舗でも笑顔で迎えてくれます。

2013年2月15日 金曜日
まついわ復興マート ココサカエル
(気仙沼市松崎)

イベントなどを企画して集客を図りながら、今夏のグランドオープンを目指し仮営業中の「まついわ復興マート ココサカエル」。名前には、「ここ(に)帰る」、「ここ(が)栄える」の2つの意味が込められているそうです。

2012年2月25日 土曜日
南三陸さんさん商店街
(南三陸町志津川)

飲食店や鮮魚店、菓子屋、理髪店、生花店など、さまざまな店約30店舗が軒を連ねる「南三陸さんさん商店街」。町の観光協会では、震災の語り部による学びのプログラムも実施しています。

2013年2月14日 木曜日
東新城かもめ通り
(気仙沼市東新城)

鹿折地区「浜商栄会」の会員6店舗が、市内の東新城地区に仮設商店街「東新城かもめ通り」を開きました。新しい仲間2店舗も加わり、計8店舗が営業しています。

2011年12月15日 木曜日
伊里前福幸商店街
(南三陸町歌津)

2011年12月、伊里前小学校のすぐ下にオープンした「伊里前福幸商店街」。洋服店や電気店、床屋、鮮魚店、八百屋など、この商店街に来れば生活に必要な品物の多くが手に入ります。

2012年9月16日 日曜日
石巻まちなか復興マルシェ
(石巻市中央)

石巻市中央の「石巻まちなか復興マルシェ」。毎月第三日曜日に行われている「手作り市 nomaki」では個性的で見ているだけでも楽しいすてきなお店が並びます。

2012年1月27日 金曜日
おがつ店こ屋街
(石巻市雄勝町)

石巻市雄勝町の仮設商店街「おがつ店こ屋街」。イベントに多くの人がかかるように、雄勝がもっと元気になりますように。「ふるさと雄勝」を思う気持ちがたくさんあふれています。

2012年1月6日 金曜日
七の市商店街
(七ヶ浜町吉田浜)

七ヶ浜町吉田浜海岸から約2キロの高台にオープンした「七の市商店街」。津波で被災した七ヶ浜町内の7店が、仮設店舗として軒を連ね、地域住民の交流の場にもなっています。

2012年6月21日 木曜日
鳥の海ふれあい市場
(亶理町荒浜)

荒浜にある「わたり温泉鳥の海」は、亶理町自慢の温泉施設でした。その1階に入っていた「鳥の海ふれあい市場」。「人が集まり、にぎわう荒浜地区を再生したい!」の一心で、懸命に踏ん張っています。港の目の前なのですぐ分かります。

2012年1月26日 木曜日
おしかのれん街
(石巻市鮎川浜)

2011年11月に石巻市鮎川浜にオープンした仮設商店街「おしかのれん街」。鮮魚店や飲食店、青果店、理美容店など10店舗以上が営業しています。開店に当たり、さまざまなご支援をいただきました。

2011年12月8日 木曜日
しおがま・みなと復興市場
(塩竈市海岸通)

塩竈市のマリゲート塩釜に隣接する商店街で、鮮魚店や水産加工店など、港町塩竈の特長が感じられる店が並んでいます。

2012年6月17日 日曜日
夢いちごの郷
(山元町浅生原)

観光農園と野菜や特産品の直売所として、地域になくはない存在だった「夢いちごの郷」。「自分たちだけでなく、地域のためにも」と、再起に取り組んでいます。

みやぎの復興の歩み [2011.3 ~ 2013.3]

2011



3月	11日	東日本大震災（東北地方太平洋沖地震（M9.0、最大震度7））発生 「宮城県災害対策本部」設置 全市町村に災害救助法を適用
	14日	東日本大震災の県内避難者数が最大（約32万人）に
	24日	東北自動車道全線の交通規制が全面解除
	27日	震災後初の5,000KL積み油輸送船が仙台塩釜港（塩釜港区）に入港 以後ガソリンなど油燃料の需給環境が次第に改善
4月	7日	宮城県沖を震源とするM7.1の余震発生 栗原市・仙台市で震度6強を観測
	11日	「宮城県震災復興基本方針（素案）」公表
	13日	仙台空港で震災後初となる国内臨時便が就航 1
	14日	塩竈市魚市場で震災後初の水揚げ 2
	22日	「宮城県震災復興本部」設置
	28日	県内初の仮設住宅への入居開始（塩竈市）
29日	東北新幹線が全線復旧 3	
5月	2日	第1回「宮城県震災復興会議」開催
6月	20日	「東日本大震災復興基本法」成立
	25日	東日本大震災復興構想会議が「復興への提言」決定
7月	25日	仙台空港国内定期便が再開
	29日	国の「東日本大震災からの復興の基本方針」決定
8月	1日	自衛隊が県内での復興支援活動を終えて撤収
	10日	県内初の事業用仮設施設（しおがま・みなと復興市場）完成
9月	5日	「宮城県サポートセンター支援事務所」開設
	12日	「東京電力福島第一原子力発電所事故対策みやぎ県民会議」設立
	25日	仙台空港ターミナルビルが完全復旧し、国際定期便（仙台～ソウル線）が再開
10月	1日	仙台空港アクセス鉄道が全線で運行再開
	17日	新北上大橋および定川大橋の仮橋が供用開始 4
	18日	「宮城県震災復興計画」策定
11月	14日	「宮城県産業復興相談センター」開設
	19日	震災後初の県産イチゴの出荷開始 5
12月	1日	宮城県震災復興本部に「被災者生活支援実施本部」を設置 「みやぎ心のケアセンター」開設
	11日	県内のライフラインがすべて復旧（津波で流出した地域を除く）
	26日	応急仮設住宅完成（406団地 22,095戸）
	27日	「宮城県産業復興機構」発足
	30日	県内の全避難所が閉鎖

2012

1月	11日	「みやぎ復興元年セレモニー ～自動車が復興をけん引する～」開催
	31日	「東京電力福島第一原子力発電所事故被害対策基本方針」策定

2月	9日	復興特区第1号「民間投資促進特区（ものづくり産業版）」認定
	10日	国が「復興庁」設置。仙台市に「宮城復興局」、気仙沼市および石巻市に支所を設置
	17日	沿岸14市町の「復興整備協議会設立合同会議」開催
3月	2日	復興交付金第1回交付可能額通知
	5日	「株式会社東日本大震災事業者再生支援機構」業務開始
	11日	東日本大震災発生から1年。県内各地で追悼式などが行われる 6
	19日	「東京電力福島第一原子力発電所事故被害対策実施計画」策定
	24日	亘理名取ブロック焼却施設の火入式を実施
26日	「宮城の将来ビジョン・震災復興実施計画」策定	
4月	1日	「みやぎ心のケアセンター地域センター」開所（石巻市、気仙沼市）
5月	15日	「みやぎスマートシティ連絡会議」設置
	25日	復興交付金第2回交付可能額通知
6月	8日	「みやぎ復興住宅整備推進会議」設置
	14日	「市町村震災関係職員確保連絡会議」設置
	16日	「海岸林再生キックオフ植樹」開催
7月	12日	仙台松島道路（利府中インターチェンジ～松島海岸インターチェンジ間）4車線化供用開始
	20日	「夢メッセみやぎ」が復旧し、施設を再開 7 県内初の「被災市街地復興土地区画整理事業」認可（石巻市新蛇田地区）
8月	5日	県内初の防災集団移転促進事業「岩沼市玉浦西地区造成工事」起工式開催 8
	8日	仙台松島道路「春日パーキングエリア完成式」開催
	24日	復興交付金第3回交付可能額通知
9月	8日	三陸沿岸道路「石巻インターチェンジおよび県道石巻北インター線着工式」開催
10月	17日	東北経済の発展に向け、仙台塩釜港、石巻港、松島港を統合 「定川河川災害復旧工事着工式」開催
	18日	「みやぎ学校安全基本方針」策定 「宮城県被災者復興支援会議」設置 9
	22日	宮城県震災復興本部に「まちづくり・住宅整備推進本部」を設置
	22日	宮城県震災復興本部に「まちづくり・住宅整備推進本部」を設置
11月	3日	「三陸沿岸道路（歌津～本吉間）起工式」開催
	27日	「山元町新山下駅周辺地区第一期災害公営住宅新築工事着工式」開催
	30日	復興交付金第4回交付可能額通知
12月	1日	仙台東部道路「仙台港インターチェンジ」供用開始
	22日	JR気仙沼線においてバス高速輸送システム（BRT）による本格運行開始 10

2013

1月	23日	「大島架橋事業着工式」開催
	29日	気仙沼ブロック小泉地区の焼却炉が稼働。県受託処理による焼却炉26基すべて稼働 11
2月	1日	県地域防災計画の見直し（宮城県防災会議にて承認）
3月	8日	復興交付金第5回交付可能額通知
	11日	東日本大震災発生から2年。県内各地で追悼式などが行われる



復興の歩み（年表）

復興の歩み（年表）

被災者支援情報

information



宮城県では、東日本大震災により被災された方々の生活支援や事業再建に向けたさまざまな情報を発信しています。ぜひ活用ください。



宮城県ホームページ

<http://www.pref.miyagi.jp/site/ej-earthquake/>

宮城県の東日本大震災に関する情報を随時更新し発信しています。平成24年11月にリニューアルし、主に、「震災・復興」の категорияで関連情報を公開しています。

みやぎ被災者生活支援ガイドブック

<http://www.pref.miyagi.jp/site/ej-earthquake/guidebook.html>

被災された方々への生活を中心とした支援に関する大まかな内容と問い合わせ先を掲載しています。県ホームページにて閲覧・ダウンロードできるほか、支援内容に追加・修正などがあった場合は、随時更新します。



中小企業施策活用ガイドブック

<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/keisyosom/h24chusho-books.html>



みやぎの農業施策ガイドブック

<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/nosusei/h24nou-books.html>



みやぎの林業施策ガイドブック

<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/nosusei/h24rin-books.html>



みやぎの水産業施策ガイドブック

<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/nosusei/h24sui-books.html>



放射能情報サイトみやぎ

<http://www.r-info-miyagi.jp>

宮城県内の放射線・放射能に関する情報を正確に分かりやすくお伝えします。



みやぎ復興プレス

<http://www.pref.miyagi.jp/site/ej-earthquake/press.html>

宮城の復興に関わる皆さまに、宮城県の復興状況や被災者支援情報など、復興に関する主な情報を月1回お届けしています。

メールマガジン版の登録はこちら！



全国の心温まるご支援のもと、宮城が復興していく姿を、復興に向けて頑張る人々やそれを支える人々にスポットを当てながらご紹介いたします。詳しくは宮城県復興応援ブログ「ココロプレス」をご覧ください。

ココロプレス

<http://kokoropress.blogspot.com/>

■各都道府県における被災者支援のための総合的な窓口

都道府県名	窓口の名称	電話番号
北海道	東日本大震災道外被災県緊急支援対策本部	011-204-5800
青森県	総務部 生活再建・産業復興局	017-734-9580
岩手県	災害総合窓口	019-629-6911
宮城県	宮城県震災復興本部	022-211-2408
福島県	生活環境部 避難者支援課	024-523-4157
秋田県	総合政策課 被災者受入支援室	018-860-4505 018-860-4504
山形県	危機管理課 復興支援室	023-630-3100
茨城県	東日本大震災総合相談窓口	029-301-4000
栃木県	総合案内	028-623-2323
群馬県	総務部 危機管理室	027-897-2239
埼玉県	東日本大震災復興支援相談窓口	048-830-8281
千葉県	危機管理課 災害対策室	043-223-2175
東京都	総務局 復興支援対策部	03-5388-2384
神奈川県	東日本大震災支援・情報ステーション	045-210-5970 045-210-5975
山梨県	総務部 防災危機管理課	055-223-1519
新潟県	県民生活・環境部 広域支援対策課	025-282-1732
長野県	危機管理防災課 被災者支援担当	026-235-7407
富山県	知事政策局 防災・危機管理課	076-444-3187
石川県	危機管理監室 危機対策課	076-225-1482
福井県	安全環境部 危機対策・防災課	0776-20-0308
静岡県	被災者受入相談センター	054-221-2527 054-221-2528
愛知県	被災地域支援対策本部 被災者受入対策プロジェクトチーム	052-954-6724
岐阜県	岐阜県災害支援対策本部	058-272-1034
三重県	防災対策部 防災対策総務課	059-224-2181
滋賀県	健康福祉部 健康福祉政策課	077-528-3519
京都府	支援対策総合相談窓口	075-414-5930
大阪府	消防防災課 災害対策グループ	06-6944-6021
兵庫県	東日本大震災 被災者電話相談窓口	078-362-4336
奈良県	知事公室 防災統括室	0742-27-8425
和歌山県	東北地方太平洋沖地震被災者支援対策本部	073-441-2271
鳥取県	東日本大震災被災者受入支援総合相談窓口	0857-26-7156
島根県	地域振興部 地域政策課	0852-22-5084
岡山県	東日本大震災支援対策室	086-226-7920
広島県	総合相談窓口	082-513-5897 082-513-5898
山口県	東日本大震災被災者受入支援総合相談窓口	083-933-2724
香川県	東北地方太平洋沖地震被災者受入総合相談窓口	087-832-3808
徳島県	被災者の受入支援全般に関する相談窓口	088-621-2023
愛媛県	避難者支援総合窓口	089-912-2386
高知県	東日本大震災支援対策本部	088-823-9096
福岡県	東日本大震災福岡県復興支援本部	092-643-3112
佐賀県	政策監グループ 被災者支援窓口	0952-25-7385
長崎県	危機管理課	095-894-3961
大分県	東北地方太平洋沖地震被災者支援本部総合情報室	097-506-3155
熊本県	東日本大震災支援総合窓口	096-333-2811
宮崎県	東日本大震災支援対応チーム総括・広報班	0985-26-7618
鹿児島県	東北地方太平洋沖地震鹿児島県支援本部事務局	099-286-2275 099-286-2276
沖縄県	被災者受入相談窓口	098-866-2143

全国の心温まる御支援に心より感謝申し上げます。

■県内市町村における被災者支援のための総合的な窓口

市町村名	窓口の名称	電話番号
仙台市	被災者支援ダイヤル	022-214-3805
石巻市	被災市民生活支援課	0225-95-1111
塩竈市	復興推進課	022-364-1111
気仙沼市	危機管理課	0226-22-6600
白石市	総務部 復興対策室	0224-22-1561
名取市	震災復興部 生活再建支援課	022-383-6232
角田市	防災安全課	0224-63-2123
多賀城市	社会福祉課 生活再建支援室	022-368-1141
岩沼市	健康福祉部 被災者生活支援室	022-322-1111
登米市	市民生活課	0220-22-2118
栗原市	震災復興対策本部	0228-22-1125
東松島市	移転対策部 生活再建支援課	0225-82-1111
大崎市	総務部 防災安全課	0229-23-5144
蔵王町	まちづくり推進課 災害復興支援室	0224-33-2212
七ヶ宿町	総務課	0224-37-2111
大河原町	総務課	0224-53-2111
村田町	総務課	0224-83-2111
柴田町	総務課	0224-55-2111
川崎町	東日本大震災復興支援対策本部	0224-84-2111
丸森町	災害対策本部	0224-72-3020
亘理町	被災者支援課	0223-34-0548
山元町	総務課	0223-37-1111
松島町	総務課 環境防災班	022-354-5782
七ヶ浜町	政策課 震災復興推進室	022-357-7439
利府町	震災復興推進室	022-767-2169
大和町	まちづくり課	022-345-1112
大郷町	総務課	022-359-5500
富谷町	総務部 総務課	022-358-3111
大衡村	総務課	022-345-5111
色麻町	総合振興課	0229-65-2111
加美町	総務課 危機管理室	0229-63-5264
涌谷町	総務課	0229-43-2116
美里町	震災復興旧対策室	0229-33-2142
女川町	復興推進課	0225-54-3131
南三陸町	保健福祉課	0226-46-2601

みやぎアクセスマップ



凡例

	自動車専用道路		新幹線
	一般道		JR線
	道路通行止め		鉄道
	復興市場・復興商店街		鉄道転見合わせ(バスによる代行輸送)
			BRT(バス高速輸送システム)運行

JR (経路における列車の乗車時間の最速・乗換時間を含みます。)

飛行機 (所要時間は最短のものです。)

東京-仙台(東北新幹線)	-----	1時間31分	札幌(新千歳)-仙台(ANA/JAL/IRDO/SKY)	1時間05分	
名古屋-仙台(東海道新幹線/東北新幹線)	---	3時間6分	成田-仙台(ANA)	-----	55分
新大阪-仙台(東海道新幹線/東北新幹線)	---	3時間55分	小松-仙台(IBX)	-----	1時間
博多-仙台(東海道-山陽新幹線/東北新幹線)	---	6時間21分	名古屋(中部)-仙台(ANA/IBX)	-----	1時間10分
新青森-仙台(東北新幹線)	-----	1時間27分	大阪(伊丹)-仙台(ANA/JAL/IBX)	-----	1時間15分
盛岡-仙台(東北新幹線)	-----	43分	大阪(関西)-仙台(APJ)	-----	1時間20分
秋田-仙台(秋田新幹線/東北新幹線)	---	2時間8分	広島-仙台(IBX)	-----	1時間25分
山形-仙台(仙山線)	-----	1時間6分	福岡-仙台(ANA/JAL/IBX/SKY)	-----	1時間45分
福島-仙台(東北新幹線)	-----	21分	沖縄(那覇)-仙台(ANA)	-----	2時間35分

※JRは2013年3月16日現在、飛行機は2013年4月1日からの情報です。※更新される場合がありますので、事前にご確認ください。※ピーチ(APJ)は4月12日、スカイマーク(SKY)は4月20日からの運行となります。

復興の最前線・宮城にぜひお越しください!

発行：平成 25 年 3 月

宮城県震災復興本部(事務局：震災復興推進課)
 〒 980-8570
 仙台市青葉区本町三丁目 8 番 1 号
 TEL：022-211-2408 FAX：022-211-2493
 E-mail fukusui@pref.miyagi.jp
 URL <http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/fukusui/>

仙台・宮城デスティネーションキャンペーン開催 2013.4.1 - 6.30

笑顔咲きたび伊達な旅

仙台 Sendai & Miyagi where smiles bloom 宮城

仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会
<http://www.sendaimiyagidc.jp/>